

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	2020年10月12日
【四半期会計期間】	第105期第2四半期（自 2020年6月1日 至 2020年8月31日）
【会社名】	株式会社大和
【英訳名】	Daiwa Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 宮 二郎
【本店の所在の場所】	石川県金沢市片町二丁目2番5号
【電話番号】	(076) 220-1100
【事務連絡者氏名】	経営戦略本部財務部長 長嶋 和生
【最寄りの連絡場所】	石川県金沢市片町二丁目2番5号
【電話番号】	(076) 220-1100
【事務連絡者氏名】	経営戦略本部財務部長 長嶋 和生
【縦覧に供する場所】	株式会社大和富山店 (富山県富山市総曲輪三丁目8番6号) 株式会社大和東京駐在所 (東京都江東区木場二丁目18番11号 大丸コアビル5階) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第104期 第2四半期連結 累計期間	第105期 第2四半期連結 累計期間	第104期
会計期間	自2019年 3月1日 至2019年 8月31日	自2020年 3月1日 至2020年 8月31日	自2019年 3月1日 至2020年 2月29日
売上高 (千円)	22,132,885	14,122,570	43,667,437
経常利益又は経常損失 () (千円)	221,362	516,958	334,606
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 () (千円)	517,504	320,235	569,554
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	419,125	429,734	399,600
純資産額 (千円)	3,744,503	3,295,115	3,724,880
総資産額 (千円)	28,490,669	28,587,227	27,398,538
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失 () (円)	92.22	57.07	101.50
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	12.6	11.5	13.4
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	801,275	690,312	777,996
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	57,289	665,464	462,957
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	356,155	1,169,747	315,275
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,761,872	2,856,091	1,661,494

回次	第104期 第2四半期連結 会計期間	第105期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2019年 6月1日 至2019年 8月31日	自2020年 6月1日 至2020年 8月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	56.03	7.92

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。
2. 売上高には、消費税等は含まれていない。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社企業グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はない。また、主要な関係会社における異動もない。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはない。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はない。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社企業グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

（1）業績の状況

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により急激な景気後退局面となった。

百貨店業界においては、インバウンド需要が消滅したほか、外出自粛による国内消費の急激な落ち込みに加え、緊急事態宣言発令に伴う営業自粛により、かつてない厳しい商況となった。

この期間主力の百貨店業においては、お客様の安全・安心を最優先し食品物産展などの大型集客催事を見直すとともに、4月中旬からは約1ヶ月間営業を自粛するなど営業面では極めて厳しい対応を余儀なくされた。

こうした情勢の中、感染防止対策を徹底する一方で、引き続き新しい「商品」と「企画」の開発による営業強化策に取り組んできた。

5月18日の営業再開後、香林坊店では、1階フロアに新ショップ「メイクアップキッチン」の導入をはじめとする化粧品ゾーンの改装を推進するとともに、8月には北陸初開催の人気アニメ「鬼滅の刃全集中展」（8月7日～17日）を開催するなど、顧客層の拡大と集客力向上に努めてきた。富山店においては、新しい生活様式が定着しつつある中、在宅時間を快適に過ごす、暮らし関連商品の提案を強化してきた。

また、デジタル化が急速に進展する中、中元ギフトを中心にWebサイトにおける品揃え及び受注体制の強化に取り組み、EC売上の拡大を図ってきた。

しかしながら、売上高については、営業再開後徐々に回復基調に向かったものの、臨時休業が大きく響いた他、高岡店の営業終了の影響もあり減収となった。

利益面においては、百貨店業では第2四半期間において若干改善したものの、ホテル業が引き続き落ち込んだこともあり損失となった。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は141億2千2百万円（前年同四半期比36.2%減）、営業損失6億9千9百万円（前年同四半期は2億1千5百万円の営業利益）、経常損失5億1千6百万円（前年同四半期は2億2千1百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億2千万円（前年同四半期は5億1千7百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となった。

また、百貨店業の業績は売上高136億7千2百万円（前年同四半期比35.2%減）、経常損失2億3千2百万円（前年同四半期は1億8千7百万円の経常利益）となった。

ホテル業の業績は売上高1億3千4百万円（前年同四半期比80.7%減）、経常損失2億6千7百万円（前年同四半期は1千9百万円の経常利益）となった。

出版業の業績は売上高2億1千8百万円（前年同四半期比5.7%減）、経常損失2百万円（前年同四半期は2百万円の経常利益）となった。

その他事業の業績は売上高3億4百万円（前年同四半期比35.5%減）、経常損失1千1百万円（前年同四半期は1千2百万円の経常利益）となった。

尚、今後については、引き続きお客様と従業員の安全・安心を第一とし、営業面を中心に臨機応変に対応するとともに、お客様の期待にお応えすべく新しい商品・企画の導入に取り組んでいく。

（2）財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は285億8千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億8千8百万円増加した。

負債については、252億9千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億1千8百万円増加した。

純資産については、32億9千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億2千9百万円減少した。

（3）キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」は、税金等調整前四半期純損失3億6千万円及び仕入債務の減少3億9千5百万円等により減少した一方、減価償却費4億6千3百万円、売上債権の減少2億7千5百万円及び預り金の増加6億2千2百万円等により、6億9千万円の収入（前年同四半期連結累計期間は8億1百万円の収入）となった。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、有形固定資産取得による支出6億7千4百万円等により、6億6千5百万円の支出（前年同四半期連結累計期間は5千7百万円の支出）となった。

また、「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、長期借入による収入11億4千万円等により、11億6千9百万円の収入（前年同四半期連結累計期間は3億5千6百万円の収入）となった。

この結果、「現金及び現金同等物の四半期末残高」は、前連結会計年度と比較して、11億9千4百万円増加し、28億5千6百万円となった。

（4）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社企業グループが対処すべき課題については重要な変更及び新たに生じた課題はない。

- (5) 研究開発活動
該当事項なし

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2020年8月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年10月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	6,003,400	6,003,400	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 100株
計	6,003,400	6,003,400	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項なし

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項なし

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万 円)	資本準備金残 高(百万円)
2020年6月1日～ 2020年8月31日	-	6,003	-	3,462	-	1,151

(5)【大株主の状況】

2020年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
宮 二郎	石川県金沢市	524	9.35
倉敷紡績株式会社	大阪市中央区久太郎町二丁目4-31	292	5.22
東京海上日動火災保険株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目2-1	285	5.09
一般財団法人大和文化財団	石川県金沢市香林坊一丁目1-1 (株)大和内	200	3.56
株式会社北國銀行	石川県金沢市広岡二丁目12-6	192	3.43
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り一丁目2-26	181	3.23
河井英夫	東京都足立区	180	3.22
清水建設株式会社	東京都中央区京橋二丁目16-1	165	2.95
ダイダン株式会社	大阪市西区江戸堀一丁目9-25	152	2.72
株式会社大市社	石川県金沢市片町二丁目2-5	144	2.57
計	-	2,318	41.33

(注) 上記のほか、自己株式が392千株ある。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 392,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,546,800	55,468	-
単元未満株式	普通株式 64,500	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	6,003,400	-	-
総株主の議決権	-	55,468	-

【自己株式等】

2020年8月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社大和	金沢市片町二丁 目2番5号	392,100	-	392,100	6.53
計	-	392,100	-	392,100	6.53

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はない。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成している。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2020年6月1日から2020年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,721,576	2,916,182
受取手形及び売掛金	1,722,013	1,446,168
商品及び製品	1,496,645	1,394,328
仕掛品	16,910	31,127
原材料及び貯蔵品	42,939	38,050
その他	396,534	521,647
貸倒引当金	24,029	23,645
流動資産合計	5,372,589	6,323,859
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	22,455,684	23,271,027
減価償却累計額及び減損損失累計額	14,025,887	14,361,450
建物及び構築物(純額)	8,429,797	8,909,576
機械装置及び運搬具	773,630	776,274
減価償却累計額	674,230	683,544
機械装置及び運搬具(純額)	99,399	92,729
土地	8,265,525	8,265,239
その他	1,480,709	1,673,910
減価償却累計額及び減損損失累計額	994,216	1,045,958
その他(純額)	486,493	627,951
建設仮勘定	314,411	-
有形固定資産合計	17,595,627	17,895,497
無形固定資産		
施設利用権	1,572	1,572
ソフトウェア	33,113	28,381
無形固定資産合計	34,685	29,953
投資その他の資産		
投資有価証券	2,017,283	1,962,260
差入保証金	5,753,520	5,670,405
繰延税金資産	150,490	150,477
その他	132,389	129,966
貸倒引当金	3,658,048	3,575,192
投資その他の資産合計	4,395,635	4,337,917
固定資産合計	22,025,948	22,263,368
資産合計	27,398,538	28,587,227

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年8月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,695,835	2,299,992
短期借入金	4,408,504	4,780,121
未払法人税等	42,797	77,484
商品券	5,271,689	5,807,947
預り金	2,990,233	3,076,014
賞与引当金	69,377	42,559
ポイント引当金	208,253	181,521
商品券等回収損失引当金	497,223	543,204
店舗閉鎖損失引当金	33,975	-
その他	797,457	941,398
流動負債合計	17,015,347	17,750,242
固定負債		
長期借入金	3,690,392	4,508,124
繰延税金負債	606,855	590,003
再評価に係る繰延税金負債	353,427	353,427
退職給付に係る負債	1,429,972	1,423,801
資産除去債務	141,984	143,547
環境対策引当金	230,000	230,000
その他	205,678	292,964
固定負債合計	6,658,310	7,541,870
負債合計	23,673,658	25,292,112
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,462,700	3,462,700
資本剰余金	1,151,981	1,151,981
利益剰余金	1,512,637	1,832,872
自己株式	594,702	594,733
株主資本合計	2,507,342	2,187,075
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	224,412	186,465
土地再評価差額金	871,201	871,201
退職給付に係る調整累計額	61,290	47,679
その他の包括利益累計額合計	1,156,903	1,105,346
非支配株主持分	60,634	2,693
純資産合計	3,724,880	3,295,115
負債純資産合計	27,398,538	28,587,227

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
売上高	22,132,885	14,122,570
売上原価	17,022,793	11,145,582
売上総利益	5,110,091	2,976,987
販売費及び一般管理費	1 4,894,387	1 3,676,580
営業利益又は営業損失()	215,703	699,593
営業外収益		
受取利息	1,134	712
受取配当金	38,181	38,303
受取賃貸料	60,691	53,479
長期未回収商品券	161,383	200,279
店舗閉鎖損失引当金戻入額	60,000	33,399
持分法による投資利益	1,151	-
助成金収入	-	127,597
その他	1,680	19,173
営業外収益合計	324,222	472,945
営業外費用		
支払利息	61,691	66,970
減価償却費	53,740	53,740
商品券等回収損失引当金繰入額	168,362	139,679
持分法による投資損失	-	424
その他	34,769	29,495
営業外費用合計	318,563	290,311
経常利益又は経常損失()	221,362	516,958
特別利益		
補助金収入	20,083	150,260
貸倒引当金戻入額	41,000	10,000
資産除去債務戻入益	260,305	-
工事負担金等受入額	129,608	-
投資有価証券売却益	1,499	-
その他	-	1,600
特別利益合計	452,496	161,860
特別損失		
固定資産除却損	2,063	5,445
原状回復費用	33,570	-
店舗閉鎖損失	2 26,800	-
その他	1,535	-
特別損失合計	63,969	5,445
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	609,889	360,544
法人税、住民税及び事業税	54,646	17,820
法人税等調整額	8,184	187
法人税等合計	46,461	17,632
四半期純利益又は四半期純損失()	563,427	378,176
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	45,923	57,940
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	517,504	320,235

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	563,427	378,176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	133,116	37,947
退職給付に係る調整額	11,185	13,610
その他の包括利益合計	144,302	51,557
四半期包括利益	419,125	429,734
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	373,202	371,793
非支配株主に係る四半期包括利益	45,923	57,940

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	609,889	360,544
減価償却費	434,213	463,165
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	8,623	19,781
引当金の増減額(は減少)	516,962	80,066
店舗閉鎖損失引当金の増減額(は減少)	165,339	33,975
助成金収入	-	127,597
資産除去債務戻入益	260,305	-
工事負担金等受入額	129,608	-
補助金収入	20,083	150,260
原状回復費用	33,570	-
店舗閉鎖損失	26,800	-
固定資産除却損	2,063	5,445
投資有価証券売却損益(は益)	1,499	-
受取利息及び受取配当金	39,315	39,016
支払利息	61,691	66,970
持分法による投資損益(は益)	1,151	424
売上債権の増減額(は増加)	19,605	275,845
たな卸資産の増減額(は増加)	260,282	92,988
差入保証金の増減額(は増加)	379,001	72,840
仕入債務の増減額(は減少)	101,929	395,843
未払消費税等の増減額(は減少)	57,576	42,936
預り金の増減額(は減少)	164,987	622,038
その他の資産の増減額(は増加)	4,829	118,546
その他の負債の増減額(は減少)	30,853	107,298
小計	692,467	424,321
利息及び配当金の受取額	39,315	39,016
補助金の受取額	149,691	277,857
利息の支払額	56,921	67,749
法人税等の支払額	23,276	16,867
営業活動によるキャッシュ・フロー	801,275	690,312
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	10,089	10,090
定期預金の払戻による収入	59,689	10,090
有形固定資産の取得による支出	136,364	674,771
有形固定資産の売却による収入	17,000	-
無形固定資産の取得による支出	904	2,417
投資有価証券の売却による収入	1,500	-
差入保証金の差入による支出	1,563	74
差入保証金の回収による収入	565	10,349
その他の支出	3,008	2,800
その他の収入	15,886	4,250
投資活動によるキャッシュ・フロー	57,289	665,464
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	504,800	256,473
長期借入れによる収入	-	1,140,000
長期借入金の返済による支出	137,217	207,124
リース債務の返済による支出	11,277	19,570
自己株式の取得による支出	150	31
財務活動によるキャッシュ・フロー	356,155	1,169,747
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,100,141	1,194,596
現金及び現金同等物の期首残高	1,661,731	1,661,494
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,761,872	2,856,091

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

該当事項なし

（会計方針の変更）

該当事項なし

（会計上の見積りの変更）

該当事項なし

（四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

該当事項なし

（追加情報）

（会計上の見積り）

新型コロナウイルス感染症の影響については、営業再開後の6月以降は堅調な業績推移となっているが、今後の収束時期等を合理的に予測することは困難な状況にある。

当第2四半期の連結財務諸表作成時においては、当該影響が当面の間継続するものと仮定し、繰延税金資産の回収可能性および固定資産の減損損失等に関する会計上の見積りを行っている。

なお、将来における実績値に基づく結果が、これらの見積りおよび仮定とは異なる可能性がある。

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項なし

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
給料手当	984,743千円	848,114千円
ポイント引当金繰入額	352	6,288
賞与引当金繰入額	3,801	16,153
貸倒引当金繰入額	3,525	400
退職給付費用	26,755	20,998
賃借料	599,878	359,195

2 減損損失

当社企業グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上した。

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

場所	用途	種類
富山県高岡市	店舗等	建物その他

店舗等については、継続して収支を把握している単位で資産のグルーピングをしている。

当該資産グループは、店舗を閉鎖したため、閉鎖時の帳簿価額26,800千円について、回収可能性が見込めないとして減損損失を計上した。

減損損失の内訳は、建物26,800千円であり、特別損失の店舗閉鎖損失に含めて表示している。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

該当事項なし

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と当第2四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
現金及び預金勘定	2,771,962千円	2,916,182千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	10,089	60,090
現金及び現金同等物	2,761,872	2,856,091

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項なし

(2) 基準日が当連結会計年度の開始から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生

日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし

(3) 株主資本の金額の著しい変動

該当事項なし

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

該当事項なし

(2) 基準日が当連結会計年度の開始から当四半期連結会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生

日が当四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項なし

(3) 株主資本の金額の著しい変動

該当事項なし

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	百貨店業	ホテル業	出版業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	21,091,915	682,971	231,398	22,006,284	126,600	22,132,885	-	22,132,885
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	2,479	17,211	-	19,691	345,623	365,314	(365,314)	-
計	21,094,394	700,183	231,398	22,025,975	472,224	22,498,200	(365,314)	22,132,885
セグメント利益	187,363	19,999	2,062	209,425	12,320	221,745	(383)	221,362

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷業及び飲食業を行っている。

2. セグメント利益の調整額 383千円は、持分法による投資利益1,151千円、未実現利益の消去等1,535千円である。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:千円)

	百貨店業	ホテル業	出版業	その他	全社・消去	合計
減損損失	26,800	-	-	-	-	26,800

減損損失の詳細は、(四半期連結損益計算書関係)に記載の通りである。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	百貨店業	ホテル業	出版業	計				
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	13,670,691	122,316	218,173	14,011,181	111,388	14,122,570	-	14,122,570
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	1,455	12,475	-	13,930	193,302	207,233	(207,233)	-
計	13,672,146	134,792	218,173	14,025,111	304,691	14,329,803	(207,233)	14,122,570
セグメント損失()	232,711	267,086	2,623	502,421	11,831	514,252	(2,705)	516,958

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、印刷業及び飲食業を行っている。

2. セグメント損失の調整額 2,705千円は、セグメント間取引消去である。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の経常損失と調整を行っている。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりである。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年8月31日)
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	92円22銭	57円07銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	517,504	320,235
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失()(千円)	517,504	320,235
普通株式の期中平均株式数(株)	5,611,719	5,611,303

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし

2【その他】

該当事項なし

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年10月12日

株式会社大和
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石原 鉄也 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沖 聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社大和の2020年3月1日から2021年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年6月1日から2020年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年3月1日から2020年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社大和及び連結子会社の2020年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。